

復興のシンボル事業として



圏央道常総インターチェンジ周辺整備事業の進捗状況と今後のあり方について



圏央道常総インターチェンジ付近

議員
今回の水害により鬼怒川東部地域全体が浸水し、常総インターチェンジ周辺整備事業も一時中断していると思う。現在の進捗状況を尋ねる。

都市建設部長
地権者の意向が最も重要と考え、災害後、役員の意見交換会を3回開催した。その中で一刻も早く事業を推進してほしいという意見があった一方、まずは復旧を最優先すべきとの意見もあった。事業者側からは、今までと変わることなく推進していきたいとの発言があった。意見

交換会の最後には、今後は復興のシンボル事業としても推進すべきであるとの意見で一致した。

議員
この事業は土地の交換を行って3分の1を事業者が買い、残りの3分の2を農地として残すという大変複雑な手法である。しかし、今回の水害によって、土地を全部買ってもらいたいと考える地権者も出てきたのではないか。

都市建設部長
農地の買い上げについては、農地法改正により、株式会社での農業参入が緩和されたこともあり、地権者や事業者の意向を確認しながら協議をしていきたい。

議員
国や県から補助金をいただけるか分からないが、水害直後であれば、許認可という点では早くいただけるのではないかと考えている。この事業を常総市の復興ビジョンの1番目に入れていただきたい。

市長
常総市の復興計画の中で、インター周辺の開発計画は復興のシンボルとして位置づけてもいいと思っている。積極的に全力で取り組んでいきたい。



人の助言は聞くべきじゃないですか!?

関東・東北豪雨災害について

議員
大雨特別警報が出た時点で市内全域に避難指示を出すべきだったのではないか。

市長
大雨特別警報が出たから即避難ということにはつながらないと思う。あくまで洪水のおそれが生じたときに出すというのが現在の基準である。

議員
対策本部を移動しなかった理由を問う。

市長
市役所内に避難している市民の方を残して本部だけが移動するということはできないという判断が一つにはあった。

議員
その判断が間違いである。非常用発電装置が止まり災害本部としての機能を完全に失った。こんな状況で対策本部と言えるのか。私は庁舎等建設検討委員会の中で、非常用電源は1階に置いてはいけないと言ったはずだ。人の話は聞いたほうがいい。次に、市長及び幹部職員がすぐ

に現場に出て現況確認を行わなかった理由を問う。

市長
上三坂には15日に行ったが、十分に現場に行けたとは言えないと思う。

議員
災害は現場で発生している。現場も知らないで、何が対策本部だ。次に、災害ごみの収集方法について、きちんと業者に委託して分別して収集すべきと助言したのに、取り合わないで何でもいい加減なやり方をしたのか。

市長
残念ながら、膨大なごみ量の前にそれができなかった。

議員
なぜ人の助言を聞かないのか。市民の役に立ってこそ公務員です。まず、自分たちのことをきちんと検証した上で、復旧・復興という言葉を使ってもらいたい。